



氏名 梅田 光翼
所属 文学部 言語文化学科
学年 4年
留学先 ハンブルク大学
留学期間 2024/4/3~2024/9/10

留学レポート Study Abroad Report

こんにちは、文学部の梅田光翼です。2024年の4月から9月までハンブルク大学に留学していました。このレポートでは留学前から留学後の感想まで、それぞれの概要を私の経験をもとに書きたいと思います。



ハンブルク港の風景

留学前

私は言語文化学科の中にある、ドイツ語圏言語文化コースに所属していて、新修外国語から3年間ドイツ語を勉強していました。せっかく学んできたドイツ語なので現地での生活にも挑戦をしてみたいと思い、今回ハンブルク大学への交換留学を希望しました。

行きたい時期（大まかには夏学期と冬学期になります）が決まれば、その半年より前に情報を集める必要があります。というのは、日本国外に出て生活する関係上手続きが多いかつ複雑で、それに伴って多くの時間がかかるため、締め切りが半年前であることが多いからです。私に関して言えば、2023年の春から夏にかけて大学のサイトや教員から情報を手に入れようと動いていました。申し込みや面接を経て学内での専攻が終わると留学先との連絡が始まっていき、閉鎖口座（ドイツでの最低限の生活能力を保證するための口座）やビザの手続きを進めていきました。個人的な感想としては、様々な機関（大学や寮、役所

など) や人と連絡を取り、管理していくこの段階が、不安も相まって留学の中でも神経を使った時期だったと思います。特にビザに関しては予約がうまく取れずに、結局ドイツで滞在許可証を申請することになりました。やることは多くありましたが、教育推進課をはじめとしたサポートが充実しているので、わからないことや不安なことは尋ねながら進めることができました。

渡航中

私は関西国際空港からイスタンブールを経由してハンブルクに行くルートを選択しました。残念ながら日本からハンブルクへの直行便はなく、最低 1 か所経由する必要がありました。ドイツへの直行便としてはフランクフルトとミュンヘン行きがありました。ひとまずドイツ国内についておいてから移動したいという人は、割高ですがそのような方法もあります。

一人で海外に行くのは今回が初めてだったので、イスタンブールでのトランジット待ちでふと荷物の乗り継ぎについて不安になりました。自身のチケット内容を正確に把握していなかったために、再度預け入れが必要だと勘違いしてしまい、間違えてトルコに入国してしまいました。係員に尋ねることで問題は解消されたのですが、再び出国審査が必要であり時間との勝負になってしまいました。海外に行く際は必要事項をすべて調べ尽くして、突発的なハプニング以外で不安にならないよう対策することをおすすめします。走りに走って何とか間に合いましたが、この失敗があったので、復路はひたすら空港内で待ち時間を過ごしました。

ハンブルク空港に到着すると、チューター達が出迎えてくれました。

一般生活

まずは生活について書こうと思います。到着して最初は寮に向かいました。初めてのドイツの電車でしたが、日本にいる時から Deutschland Ticket (以下 D チケ) という ICE (ドイツの新幹線) などの特別な電車以外が定額で乗り放題のチケットがあったのでスムーズに乗れました。

中央駅から比較的近い寮で、個室ありキッチンとバスルームが 4 人で共用の部屋が割り当てられました。近くにバスと電車の駅やスーパーがあり、生活で困ることはそう多くはありませんでした。ルームメイトに関しては、必ずしもドイツ語が必要ではない大学の留学生たちもいたので、寮内ではしばしば英語を話さなければなりません。

寮の案内を受けた後改めて契約を確認し、サインをすると住民登録に必要な書類を貰えました。

先述の通り周囲は生活のしやすい環境が整っていますが、日本とは多々違う点もあり、夜間の無暗に外出することは控えていました。そもそもの法律が違っていたり、日本でもそうですが常識外の間人もいます。夜はその割合が少々高い気がするのですが、必要がある際はできるだけ近くの駅に帰ってくる、人通りの多い明るい道を歩く、誰かと一緒に帰るなど、できるだけ対策をして過ごしました。

食事に関しても、自炊が基本なので口に合う合わないの問題はありませんでした。しかし食材の種類が多く、説明に日本語は基本的になかったので少しずつ試しつつ改良していきました。近くにアジア人向けのスーパーもあったので、恋しくなった際や特定の食材が必要な場合は調達が可能でした。

大学生活

大学については到着して 1 週間ほどで始まりましたが、チューター達やハンブルク大学の担当の方がオリエンテーション等を通じて情報提供をしてくださったので、スムーズに履修手続きを終えることができました。プレイスメントテストがあり、自分の現在の能力と受講できる授業が分かるので、初めての学期でもある程度見積もりを持って授業を選択できました。同じく日本から留学する人でも授業の数は人それぞれで、やりたいことに合わせて調整できました。

カリキュラムに関して大きく日本の大学と差はなく、4 月から 7 月まで授業がありますが、祝日等もあり、最後にはテストやレポートをこなして終わりになります。教科書販売は大学単位ではなさそうだった

ので、自身で書店から取り寄せました。配達がハブニングでなかなか届かず、ドキドキしました。私は主に語学センターの授業を受けたので、ドイツ語を集中的に学びました。授業内では多く発言の機会があるので、できるだけ積極的になることを心掛けました。訛りや文化も含めて様々な背景の留学生がおり、それぞれがドイツ語の難しさを理解しているので、比較的発言や間違いをすることにも寛容であり、成長しやすかったと思います。

このように授業が活発であることが多いので、自然と友人ができることももあり、授業後や休日に一緒にアクティビティをすることもありました。お互い第三言語で話し続けることは大変ですが、普段関わる機会が少ない人たちと話したり何かをしたりすることは言語の困難を超える価値があると思いました。ハンブルク大学の日本学科の生徒とも頻繁に交流をし、文化や言語を教え合うタンデムをしました。私は比較的内向的な人間ですが、この留学のチャンスを活かすために積極的に日本学科のサポーターや活動に参加しました。学期が終わる頃にはパーティーやクイズ大会もあり、真面目な授業から楽しいイベントまで、多くを日本学科の友人たちと過ごしました。

大学には学食やカフェが点在しており、その中のあるカフェの人気メニューであるグラタンは絶品で、学校に行く日は毎日と言っていい程頻繁に食べていました。学内の食事は平均して安いことが多く、バイトをしておらず留学中に仕えるお金も限られているので、積極的に利用しました。友人たちとの交流の機会にもなりました。



旅行

ドイツに来たからには旅行もたくさんしたいと思い、1つ前の学期からいた友人や現地の友人におすすめの場所を聞いたり、ガイドブックを見たりして計画しました。宿や交通手段など、予約が早ければ早いほど料金が安くなるものもあるので、カレンダーアプリやメモ帳で先の予定を総合的に管理して、それらの隙間に旅行の予約を埋めることでお金を節約しました。一時期は1ユーロが173円程まで跳ね上がったこともあり、日本のクレジットカードが切りづらかったので、閉鎖口座にあらかじめ入れていた分なんとかやりくりしました。ヨーロッパの国々は陸続きであることが多いので、FlixBusをしばしば利用しました。長距離を運行するバスで、ICEや他の手段よりも比較的安価に旅行ができます。欠点としてはスペースが通常のバス程度しかなく、長距離になると体力を消費するため慣れが必要であることと、乗り場が分かりづらい場合があることです。私はブリュッセルでバス停を間違え、深夜に取り残されたことがあります。ICEや夜行列車などの長距離を走る電車はそのまま海外の線路も走れるようで、オーストリアなどの近隣諸国に電車で行くこともできました。私は経験がありませんがLCCを利用して飛行機でヨーロ

ツパ中を飛び回っている友人もいました。

ハンブルクは北ドイツに位置しているので、Dチケで行ける範囲を日帰りによく回っていました。海や港、川などの水に関する場所が豊かで綺麗でしたし、街と街の間が広大な草原だったりもするので、電車に乗っている間も日本との風景の違いを楽しむことができました。

旅行をする際に一番気を付けなければいけない日本との違いは、交通手段の時間の正確さです。原因は詳細に調べていませんが、とりあえずよく遅れます。運が悪いと運行取りやめも発生します。騒音が溢れる中でアナウンスを聴きとったり、その後の対応を理解するのはまだ簡単ではなかったため、人に直接尋ねることもしながら旅行をしました。オーストリアで夜行列車がなくなった際は焦りましたが、自分がドイツ語を使ってどこまでピンチを凌げるかという挑戦でもありました。地域のアプリのダウンロードや運行会社のサイトなど、できるだけ対策をして旅行に臨めばきっと素晴らしい体験ができると思います。

宿に関しては全てホステルを利用し安価に済ませました。盗難対策と安全対策をしっかりしておけば特に困ることはありませんでした。一人旅の際にはスーパーで食材を調達して腹ごしらえをしていましたが、食べ物が有名な場合は食べ歩きもしました。

留学を通して

今回の留学ではドイツ語が上手になりたい、自分を試したいと言ったような気持ちで挑みました。その過程で大学や教員、奨学金機構など多くの機関や人々に手厚い支援をしていただきました。そうぞて多くの人に支えてもらったことで、留学中に何をしたいか、ふと思いつかなくなっても、とりあえず外に出てみたりドイツ語のポッドキャストを聴いたりして、できるだけ時間を無駄にしないようにしようと思えることができました。交換留学として大学の名前を借りて生活することは自分自身に多くの意味をもたらしたと思います。

普段日本語で簡単にできることがドイツ語や英語に置き換わると途端に心構えが必要になり、日常生活も挑戦の連続でしたが、そういった経験をすることによって、日々の動きに関して立ち止まって考えることも増えてより充実度が増したと思います。

「失敗をしても当然であり、失敗をしたままにしないこと」をモットーに、できるだけ事前準備をしつつも、恐れぬ気持ちで機会を利用できたと思います。それを受け入れてくれる風土が固まっていたのもハンブルク大学や留学生同士の雰囲気の魅力でした。

語学力と同時に人としての気持ちのありようや生活力も日々変化して行って、帰ってくる頃には少し明るい気持ちで再び日本での生活を始めることができました。またいつか帰りたいと思う場所が世界に新しくできたことはとても嬉しく思います。



市庁舎や教会が一望できるスペースがあります。



美味しいコーヒーが比較的安価で飲める Elbgold
はおおすすめです。



ドイツ名物カレーヴルストはハンブルク中央駅付近
にあるキッチンカーのものが一番お得で美味しかったです。



船で移動した先にある海岸の風景。
ハンブルク名物 Fischbrötchen も美味しいです。



ドイツ全土で人気のケバブ。
肉も野菜も手軽に取ることができます。